

東京府庁舎のシンボル ～高塔と時計



「京橋より丸の内市役所丸ビル方面全景(絵葉書)」(個人蔵)

府庁舎の正面中央の屋根には地上からの高さ 133 尺 3 寸(約 40.4m)もの高塔が建てられました。

さらに、正面玄関上には時計がつけられました。時計は、明治初期、東京の時計業を牽引した小林時計店(店主:小林伝次郎)のものでした。同店は、八官町(現在の中央区銀座八丁目)にあった江戸時代から続く時計商で、同店の屋根上に時計塔を設置していたことから「八官町の大時計」として知られていました。現在、銀座四丁目の交差点に建つ時計塔は、この小林時計店の時計台を真似したものです。

このように、2代目東京府庁舎は首都・東京のランドマークでした。